

養父市議会とPTA・子育て世代とのオンライン懇談会 会議記録

I 日 時 令和8年1月30日（金）

午後8時00分～

II 場 所 養父市役所3階当局控室よりオンライン開催

III 出席・欠席委員等

〈養父市議会改革推進特別委員会委員出席〉 8人出席

役職名	氏名	役職名	氏名
委員長	深澤 巧	副委員長	西田 雄一
委員	川瀬 稔	委員	田路 之雄
委員	北山 愛	委員	淨慶 耕造
委員	石本 毅	委員	井戸 弘美

（井戸委員は自宅よりオンライン出席）

〈議員出席〉 1人出席

役職名	氏名
議長	谷垣 満

〈PTA・保護者会役員・一般市民出席〉 19人出席

（内訳）PTA役員 6人、保護者会役員 7人、一般参加者 6人

〈議会事務局〉 2人

役職名	氏名	役職名	氏名
事務局長	井上 隆司	次 長	安達 一郎

IV 議事進行

1 開 会

【深澤委員長】 省略

2 あいさつ

【谷垣議長】 省略

3 オンライン懇談会の進め方

【深澤委員長】 省略

4 話題提供

【西田副委員長】 省略

5 意見交換

【進行：深澤委員長】

【要旨】

(PTA役員)

私のところは子どもが3人、小学校6年生と4年生、1年生の子どもがいる。1つ感じることは、3人いる家庭というのが少なくなっているのではないかということ。我々の世代は3人兄弟が当たり前で、1人世帯が少なかったが、最近は基本的に2人で、1人の家庭が珍しくない。昨年旅行に行こうと思ってホテルを予約したら、大人2、子ども3を入力するとあまりヒットしない、大人2で、子ども2だとヒットした。全国的にも子どもが2人の家庭というのが、もう普通となっていてきていると感じる。教育を含めて、意識を変えていくということだと感じている。

(北山委員)

私も同じ3人の子どもがいて、ホテルの話を聞いた時に全くヒットしないので、ああ分かるなと思いながら話を聞いた。確かに少子化で、3人になると子育てがしにくいと思う。女性進出の部分で、今このように出させていただいているが、なかなか理解が得られない、働きにくいと感じることがある。いろいろと変えていかないといけないと感じている。

(一般参加者)

共働きで、今は育休中。普段の生活の中でもうちちょっとこうだったら楽になるのと思うことの1つがこども園の白ご飯弁当。私立のこども園だが、毎朝ご飯を炊いて詰めて冷ましてというのが負担になっている。なんとかなりませんかとアンケートに書くが、本来は持ってくるものですという感じで断られている。それをフェイスブックや友達にそういう話をすると、自己負担で1,000円とか2,000円とか払って、ご飯を園が出してくれるのが普通だというようなことを言われてびっくりしてしまった。せっかくご飯炊いたとしても、園に持って行って冷えたご飯を食べさせるのは申し訳ないという気持ち。夏場の衛生状態も気になるし、公立で優先的にやってくれたら、私立の方も変わるのでは。もう少し楽になると、女性が働く上で家事の負担が減ると思った。学童で弁当の宅配をしてくれると思ったが、長期休みに毎日弁当を作らないといけない、どうしようかと今から不安に思っている。豊岡の人に話をすると、学童で取ってくれるサービスのところもあると聞いて、養父ではあまり聞いたことがなかったがどうなのかと。もしあるなら、そういうちょっとした毎日の負担が減るようになることがもっとあったらいいのと思う。

(北山委員)

確かに毎日負担、弁当箱を洗うのも結構大変。あとこども園の愛情弁当の日が毎月あり、作りたい気持ちはいっぱいだが、働いているお母さんからしたら結構大変。学童では宅配の弁当が注文できるようにはなっている。

(保護者会役員)

都会からこちらに結婚して来た。小学校も200人くらいいるようなところで育ったので、

どうしても子どもたちが交流できる人数が少ないというのが、都会から来た者としては不安になっている。濃密な関係構築という意味ではすごく勉強になるところが多いと思うが、多様性とか、いろんな個性の人、いろんな種類の人がいるというのは娘には知ってもらいたい、というのが個人的な願い。但馬内の森の幼稚園に連れて行って豊岡のお友達を作るとか、ワークショップのイベントなど新しいお友達との出会いづくりに力を入れている。他の学校や他の園との交流事業などが頻繁にあると嬉しいと思う。実際、5歳になってから他のこども園との交流会でお友達作ったという話も聞いているので、それはすごくいい取り組みだと思う。

（浄慶委員）

子どもが少ない中で社会性をどう出したらいいのか、あるいはコミュニケーション能力がそれで育つかというような、いろんな不安をお持ちだろうと思う。小規模のいいところ、大勢の人間の中でいいところというのはどちらもあると思う。私が皆さんの歳の頃は、子どもは芋の子を洗うようにして育てるというような話であったが、それがいいとは言いきれないところもある。教育のあり方検討委員会で学校の統合とか園の統合とかいろんな問題で議論をされ答申を出されているが、その中でも小規模のいい面、大規模のいい面、複式の中でも子どもたちがよく育つような姿など、様々なことが議論されているので、ホームページで公開されている議論の中身を参考に、例えば社会性とかコミュニケーション能力などを、他の園、他の学校との交流によって子どもたちの成長を保証するような教育のあり方もあるので、話し合っていけたらと思う。

（一般参加者）

支援から抜け落ちている子どもたち、不登校の子だとか、すごく繊細で学校に行きづらかったりする子は、障害者の手帳などもなく、中学校を卒業した時点で支援が切れてしまうというような現状が今、教育の中にあると思っている。中学校3年生までは、養父市ではこども第三の居場所（養父市ほっとステーション、愛称「ククナ」）というところに通えるという、安心できるような居場所があるのでそれはすごくありがたいことだと思うが、高校に入ると通えなくてその先がないということを聞いた。それで通信制の高校等を選択するが、登校回数が通信の高校だと週に1回ぐらいというふうに少ないということで、学校以外のつながりが持ちにくいのではと感じている。豊岡であれば、ドーナツの会や農楽（のーら）というような若者向けの就労の支援というのがあったと聞く。同じような若い世代を支えるような仕組みが養父市の中では見つけられなかったもので、そういうところをこれから養父市にお願いしたい。我が子も今ククナに通っているが、中学校を卒業した後のことを考えると、その支援がないことを親として今不安がある。新しい施設というより、今あるククナを利用するなど、今ある取組を広げるという形で、高校生以降になっても気軽に顔を出せる居場所だとか、そういう支援を養父市で整備してもらえたら嬉しいと思う。

(井戸委員)

個人的なことになるが、私自身も学校登校拒否の子どもを何人か預かっている中で、高校生になって通信制高校に行っている子は、聞いてほしいという思いが強い。そういう子は、信用できる人なら、いろんなことを話してくれる。本当に繊細で、自分のことを信用してくれる、自分自身が信用できるものを見つけていっている状況。養父市の中でもいろんな方向性で考えていかなければいけない部分ではあると思うが、現状できるとするならば、親ではない第三者で、子どもたちが一緒に遊んだり話せる人を紹介してあげて、その間に市が動くことによって、何かその子たちに協力することができるのでは。

(PTA役員)

中学3年生の男の子どもがいるが、感じているのが高校受験。子どもたちの中で、入りたいところに入れるという意識が蔓延してしまっているという話を聞いた。実際合格しやすい状態になってしまっている。その中で、その子らが高三になって大学受験、就職といった時に果たして戦いきれるのかというのがすごく今から心配になっている。目標があって、そこに向かって頑張ろうという子だったら、その先を見据えて動くことができると思うが、ふわっとして、なんとなく高校行けたなとなっただけで、それがゴールじゃない、その先果たしてこのままの状態で戦えるのかなというのを不安に思っている。それと高校に入った後、行きたいところに行くとしても、養父市の中でそれ以上に学べるところがない。どうしても子どもたちは他の所へ行ってしまう。その子たちがまた養父市に戻ってきてくれるかどうか、それがとても大切だと思う。そういうことも含めて、養父市でも、大学とかは難しいと思うが、戻ってきやすい環境を作ってもらえたらと思う。

(石本委員)

本当にどうやったら戻ってきてくれるか。1つは働く場所を作っていくということ。教育に絡めて言うなら、地域ならではの教育とか思い出、地域に誇りを持ってもらう。東京の暮らしを求めるのではなくて、ここにしかないものをみんなで考えるのが、教育のあり方かもしれない。少人数のいいところもあり、それから多人数をどう絡めるかという話もあるが、今の養父市の状況を前向きに考えて、養父市ならではの社会のあり方を考えることにもつながる、教育というのはすごく重要な役割を果たしていると思っている。

(一般参加者)

1歳から中学校3年生まで子どもが5人いる。通っているこども園は少人数で、先生方が一人ひとりをかなり手厚く見ていて、先生に対しても信頼を置いているし、子どもたちもニコニコと楽しそうに生活していることは感謝しているが、小さい子に必要な前掛けなど手作りを要求される。何よりマークを縫うという作業があり、色も白色で指定され、それを毎日持って帰ってきて、漂白して、洗濯して、次の日にまた3セット。おむつも使う子であれば、毎回おむつにお名前スタンプを押して渡している。市販ではダメなのか。前掛けはプラスチックのものも売ってある。洗濯が増えるというのが唯一困っているところ。

小学校もかなり少なく、一番少ないクラスだと6人。1年生から6年生までみんな仲良く兄弟のように育ってはいけるが、小学校、中学校とも自然学校、修学旅行の積立をしていない。自然学校は少ないが、修学旅行になると、4万円、5万円を、これだけかかりましたので集金をお願いします、と突然言われる。去年東京に行った際も、この日までに約8万円を振り込んでください、という形。大阪からこちらに来たが、大阪ではどこの学校も1年生から積み立てる。余分超過する分は最後返ってくるが、やはりコツコツと貯めておけば負担がかからない。一気に何万円となると、きつい家庭もあると思う。コロナがあつたりで、家庭の貯金額、出せる額が変わってきていると思う。

高校に関して、定員割れしていたら名前が書ければ学年最下位でも八鹿高校に入れるという状況。親としては一旦養父市を出てほしいと言っている。少ない人数の世界にいるよりは、就職にしろ進学にしろ外に出て、帰ってくるかは決めていいよと言うが、今の子どもたちの意見は「まあ戻らんかな、養父市に何もない」と言う。私の実家は繁華街なので、子どもたちにとっては本当に刺激的、アルバイトにしても種類があつて、就職先もいろんなところがあつて、養父市に帰ってきて何するん？という感じ。まあそうだよなと思う。子育てをしながらなら、自然の中で、少人数の中で、子どもたちをみんなで育てるというのはとてもいいと思うが、そこまで達するにはかなりの時間を要するのでは。遊ぶところがまずない、室内遊具場もないので、豊岡市のおもちゃのメーカーがやっている室内遊具場があつて、結局そこに行くか、福知山とかに出る。とりあえず養父市から出る。養父に住んでいる人たちが養父市にお金を落とさない。関宮にできると思うが、なんで関宮まで行かないといけないのか、関宮に行くなら豊岡か福知山に行くとなる。

（一般参加者）

中学生と大学生の子どもがいる。八鹿高校に定員割れで入学したが、高校に入ってからが大変だった。名前を書けば受かるということだが、子どもは部活に一生懸命で、勉強はあんまり、赤点取らない程度だったが、将来の目標をしっかりと持っている子は、高校に入ってからぐんと勉強に集中して大学進学という子もいるし、就職の子ももちろんいたが、中学校で名前を書いて高校受験にパッと受かった、だけど苦勞するのは高校に入ってからだとすごく感じた。子どもは推薦で大学に進学したが、高校によって最後まで勉強を頑張れる高校と、先に就職がバーッと決まってしまうと、進学する子がなかなか勉強する環境にないという子もあると、親友の話、子どもの友達から聞いた。子どもの数が少ないので競争率は低いが、将来何になりたいか、しっかりと家で話し合つて、それを持って高校に行くことが大事だと思った。下の子は姉を見ているので、将来何になりたいかをしっかりと決めて高校受験に挑むというふうになっている。学校でも将来何になりたいかを担任の先生が話をしてくれて、そういう意識を持って受験に臨むというのは懇談で先生と話をしていて感じたので、名前を書けば高校入試がぱつといけるという、それだけではないというのは、知っておいてもらえたらと思う。

今回参加した理由は不登校のことで、下の子は部活内でいじめにあつて、中学校2年生の

時に不登校になり、勉強する環境が整わなくて、学校に行けないから勉強が遅れてしまうという状態があった。ククナも本人に勧めたが、間違っただ情報が子どもたちの中で広まっていたようで、絶対に行かないと言って学校に行きにくい子たちが入る教室に通っていた。そこでは授業を受けてないから、結局勉強が遅れてしまう、勉強が遅れてしまうからすごく焦ってしまう、高校に行けないんじゃないかという焦りがあった。それで先生にも相談したが、授業を受けてないから分からない、分からないところを先生に聞いても、授業をじゃあ受けたらという感じで言われてしまって、勉強する環境がそういう意味で整わなかった。本人も進学したいけど勉強ができない、進学できないという焦りがあって、結局転校という選択を選んだが、転校を選んだ時も1年ぐらい時間がかかった。いじめが始まって、いじめが発覚してから転校するまで約1年かかったので、そこを相談する機関が養父市にはなくて、どこに相談したらいいかというのが全く分からなかった。いじめ 110 番などをインターネットで探して掛けまくって、そのアドバイスで転校という選択肢を聞いてそれを選択したが、教育委員会に相談しても動きが鈍かったり、学校がいじめを認めてくれなかったのも、なかなか動けなかったというのがすごくあった。養父市にも第三者的にいじめに対する相談機関とか、相談に乗ってくれる、井戸委員も不登校の子を預かっていると今初めて知ったが、そういう情報をもっとあればいいなと思った。

いじめられた子は、え、なんで、みたいな、突然始まって、理由もわからず、学校に行けなくなってしまう。親は、え、なんで学校に行かへんの、となってしまう、親子でもすごく分からないから悩んでしまう、でもそれを誰に相談したらいいかが分からない。そういう相談ができる機関を、学校以外の第三者がいるということ、今悩んでる親御さん、きっとたくさんいると思うし、不登校の子も本当に増えているので、養父市として考えていただけたら嬉しいと思って、今日は参加させていただいた。

(北山委員)

子どもたちが集まる場所が養父市には少ないというような指摘があった。それは私も感じていて、三歳児ぐらいまでならやっぱ一公園があるかもしれないが、本当に小学生、中学生の集える場所が全くないというのは、私自身も子どもを育てていて思う。小中学生、高校生も集えるような場所が養父市にできると、いろいろな交流がある場になっていくのではないかと、そういう場があれば、地域外からも人が集まって、自然と交流が持てるような場所、そんな場所が養父市にもできたら、私も親としてすごく嬉しいと思う。

(深澤委員長)

YBファブに新しい公園の整備がこの1、2年で進んでいる。設計はできているようだが運用等については意見が出せると思うので、貴重な意見として受け止める。子どもが少ないことの様々な問題も含め、不登校やいじめの問題点の指摘があったが、親御さんが家庭の悩みや困っていることを相談できるような窓口が、市の体制でできていないのではないかと。社会が多様化している中で、学校だけでは解決できない部分がある。

(浄慶委員)

高校生の不登校の子どもたちが行き場所がなく、これを支えるこの仕組みもないということは、ククナの先生の方から私どもにも提案を受けている。特に通信制の子どもたちが1週間に1回しか登校しない、それ以外どこに集まればいいのだと。高校生がまあ群れるというかたむろできる場所、そういうものがやはり必要だなと思っている。

就労体験、仕事に就く体験ということでは、養父市にも中小企業家同友会という会があり、引きこもりになっている若い人、障がいがあって仕事の訓練を受けたいという人たちを受け入れるようなことについて八鹿で大きな集会もあった。そういうところと社会全体がいろんなつながりを作りながら、しんどい立場にある子どもたちをどう支えていくかということは、これからやはり考えないといけないと思うし、教育委員会を含め、議員も含めて、市民と企業との間をつなげるということはしっかり考えていきたい。

(井戸委員)

実際のところ、一番困っているのは子どもたちだが、お母さん自身が自分を責めてしまう傾向がすごくあり、お母さんのケアもしないといけない。

不登校だったからこそ一緒に何かこれをやろうと決めて、生徒と「これができたら一歩行けるんじゃないか」「学校に行ってみようか」と養父中学校までついて行ったこともある。今、登校拒否になっている子が4人来ている。その中の子どもは勉強ができないから焦るというより自分自身の居場所がどこにあるのか分からないからすごく焦っていて、そうすると勉強ができなくなってしまうので、あえて勉強も面白おかしく入れるというのが、これから保護者の課題になってくるのではないかな。

一緒になって落ち込むのではなくて、できれば保護者の方はできるだけ、心の中ではそうでなくても、表向きにはプラスの言葉をかけてあげられるように、できればそうしてあげてほしいと思う。

(深澤委員長)

この問題についてはやはり専門的な知見を持っているようなアドバイザーなどを養父市の行政の中、教育委員会の中でしっかり置いて、体制を作っていくことが必要。今まではこどもサポートセンターとかククナの中にはそういうアドバイスする先生もおられたように思う。

学校や園所の配置の問題、統合の問題を検討する養父市教育のあり方検討会という市長の附属機関があり、そこにPTAの方から参加されていた方から、議論、雰囲気など、せっかくの機会なのでご発言いただきたい。

(PTA役員)

初めて出席した。自分の小学校も児童数が26名、少人数のまま続いている。導入部分で聞いたのは市の財政が厳しいことと、去年生まれた方が88名で今年も70数名ということ。ど

うしても統廃合というのは避けては通れないだろうと思っていたが、今後そういった再編が行われてくると思う。部活についても令和 10 年 10 月から地域移行になるということだが、送迎問題などもいろいろ出てくるだろうと思う。通学にしても統廃合されるとしんどいところが出てくるのではないかな。今後どういう形で進んでいくのか分からないが、今の状況では学校が 1 つで済んでしまうようになってくるとは思うが、学校がなくなると地域が衰退してくると思う。学校教育は先生の範疇の中で得られるところではあるが、やはり子どもたちは地域で育てていくものだと思うので、どうやって地域が関わりあい、子どもたちに郷土愛というか、ふるさとで育って、ここに帰ってきたいなと思うようにどう働きかけていくかが、すごく今後大事になっていくのではないかな。そういうことを感じ取ったあり方検討会だった。

（西田副委員長）

地域の中では学校は残してほしい、だけどそれだけの人数がいらないということもあるので、本当に難しい問題だと思っている。池田草庵先生の教えを養父市は全校で拾い上げてくれているので、その辺も 1 つの思いかなとは思っている。もう 1 つ、高校生がククナに入れないと最初に話したが、美咲町は高校生も利用者になっている。みさキッズあさひという、高校生も利用できて、英検など資格が取れたり、勉強できるようなことをされている。それともう 1 つ、養父市は弁護士がいらない。豊岡はおられる。やはり教育委員会の職員では無理なこともある気がするので、弁護士も様々な場面で必要ではないか。教育委員会に話したけど分かってもらえなかったとおっしゃった方があったが、職員では無理なことあると思うので、専門的な方も必要じゃないかと思っている。意見として承って、議会の方も取り組みたい。

（深澤委員長）

子どもが少ない中で、やはり居場所的なところ、交流の場や道具、あるいは保護者等の専門的な相談もできる、そういう居場所というのを研究、提案する余地はあるのではないかな。同時に、専門的な知見を持っている人材は限られているので、例えば豊岡含めて、ドーナツの会とか、就労のサポートセンターが豊岡にあるが、養父市にも出張で少し来られるみたいだが、広域的な行政窓口を考えてみるというようなことも。

（一般参加者）

夏休みが今年度から、小学校、中学校ともスロースタートを掲げていて、子どもたちにとっては日数が伸びた。保護者としては伸びてしまった。スロースタートというのは、何のため、誰のためなのか。学童に行く子というのは低学年で限られていると思うので、子どもたちを家に一人にさせたりする時間が増えてしまっただけ。なおかつ昼食の用意など保護者の負担を増やしてしまっただけで、このスロースタートは誰が誰のためにしたのか。子どもたちは喜んでいて、周りの保護者は、いやいや給食があって学校にいらっという安心感があったのに、その分また 1 週間以上伸びてしまったと。25 日から始業式だったのが、9 月 1

日から始業式になった、休業日が変わったというプリントがぼんと送られてきたが、学童に行かせるにしても、学童もかなりの金額がかかる家庭もおられると思うし、ご両親、おじいちゃん、おばあちゃんに頼られるご家庭がある。その負担が増えてきてしまっている。

(谷垣議長)

25 日始業式が始まった時の話だと、夏休み明けなどが心がしんどくなってしまったり、不登校のきっかけになるという全国的なデータもあり、養父市としてはこの数年は期間を少し短縮して二学期を始めていたと思う。それもいきなり 6 時間目、5 時間目からするのではなく、最初は半日から始めて、少しずつ普通の二学期に戻していこうというのが最初の趣旨であり、教育課から比較的出やすかったという意見もあったと聞いた。今年度 9 月 1 日からになったのは暑さの関係もあったかと思うが、スロースタート自体は変えてはないと思う。夏休みは 1 日でも短い方が家としてはありがたいが、子どもによって生きづらくなったり、そのきっかけになることを防ぐということで始めたと聞いている。

(一般参加者)

前に朝来市に住んでいて、朝来市のサービスで羨ましいと思うものがある。

1 つがオンライン診療。小児科、産科医のオンライン診療を無料で、夜間など限定はされるが、朝来市は導入されている。電話の無料相談は昔から市民向けにやっていたが、それが拡張されオンライン診療もされている。さらにその診療内容が保育園の出欠アプリにつながっていて、公立のこども園で欠席する時にその診療結果を添付できるような話を聞いて、それいいなと思う。混んでいる時だと、保育園に電話が繋がらず 5 分ぐらいかけ続けることがあるので、アプリでできたら朝の忙しい時にちょっと楽になると思っている。それと産婦人科、この養父市で産めないというのがなかなかのハードル。朝来市の時は養父で産んでいたのに、養父市に引っ越したら豊岡市でしか産めなくなった。第三子はそうだった。小児科も予約しないと受け付けてくれず、軽い症状だったら民間に行ってくれと言われた。民間も市内だと合わないというか、同じ薬ばかり出されるところがあったので、結局、市外の病院の方に通っている。医療費の助成はすごくありがたいと本当に感謝しているが、もう少し医療の充実を、せめて公立病院は充実させてほしい。

もう 1 点、都会の方から帰ってきてもらうにはどうしたらいいかという話が先ほどあったが、自然が豊かなので、自伐林家とか、林業系の話題も色々取り組んでいると思うので、森の幼稚園のようなことを養父市でもできたりとか、自伐林家がおられるのであれば、ウッドスタートという、木のおもちゃを子どもが生まれたらプレゼントするというのを、朝来市や宍粟市でもやっているが、木の良さを分かってもらったり、地元の木だからそこに愛着を持ってもらう、長く使ってもらったりすると、また教育にもいいし、また帰ってこようっていう、そういう魅力的なもの、養父市が取り込んでいることを、農業にしろ何にしろ、発見させていければ、帰っていきたくって思えるまちになっていくのかなと思う。私は帰ってきた方の人間なので。

(PTA役員)

建屋小学校で特認校制度を導入する際にも教育委員会の方から保護者からの意見を聞くということで何回も会を設けてもらったが、保護者からのこうしてほしいという意見が反映されたのかという実感がある。もう事前に決まっていたというか、意見交換会はしたけれども、ほぼほぼ決まった状態でそういうことが行われていたのではないかという実感があって、こういう意見交換する機会があっても、市民の声が届かないのではないかと思う。せっかくこういう機会を設けたのなら、スピード感のある市議会議員が、市にそういう意見を持って行ってもらって、形にしてもらえると、実現してくれるというものを見せていただきたいと思う。今日たくさんの意見を言った方がいると思うが、それがちゃんと形になる市になってほしいと思う。

(谷垣議長)

たくさんのご意見をいただいた。不登校の関係者、ククナの利用、ピアサポートのような形で一緒にやるということも大事だろうと思う。またこども園等の白ご飯がオプションでもいいのではないかと、前掛けなど市販品でよいのでは、手作業で作るとするのは大変という意見も提案してみる価値があるものではないか。

不登校の関係、いじめ等に関わる窓口については、教育委員会は不登校や引きこもりを抑えるという形の支援になっている。そうではなくて、第三者の立場から相談を受け入れる窓口を作るというのは非常に有効であろうと思う。私はこの課題を取り上げたこともあるし、以前に一般質問した議員も何人もいる。

産婦人科、小児科のオンライン相談も朝来市で始まっており、その仕組みは別としても、取り組めることは取り組む必要があると思う。

行政が行う意見交換会の中で、方針の裏付けを取るための意見交換会というような流れを感じられるということは非常に残念。ここが議会と行政の違うところであり、行政は方針を決め、議会は市民の皆様と意見交換し、しっかりと調査した上で行政に提案をしていく立場。監視も含めてそういう立場であるので、今いただいた意見はそれぞれの議員が持ち帰り、さらに調査をして、議会の中でしっかり取り上げていく。意見は報告書の形で他の議員にもしっかり共有し、それぞれの議員が取り組んでいく。その成果については、例えば一般質問で取り上げている時など、ケーブルテレビ、インターネット等で興味を持っていただいて、次の3月議会に間に合うかどうかもあるが、興味を持っていただきたい。常任委員会の中でも取り上げて調査をしていくことも議会の調査権の中で可能。意見を反映できるように努めていくので、ぜひ見ておいていただければ。

(一般参加者)

中学生になると、女子は市からHPVワクチンの案内が届く。それは女性が無料で接種できる。子宮頸がんになると将来子どもを妊娠しにくく、身体的な負担も大きい。それを予防

しましろうと全国的に一時期ニュースにもなり、CMにもなっていたが、男子もワクチンは接種できる。男子は自己負担するとなるとだいたい5万円ぐらい。子どもを作るには片方だけではできない。結婚するまでそういうことはしませんという時代でもないと思う。子宮頸がんは男性の方もウィルスを持っているので、全額とは言わないが5万円の負担が2万円になれば、私は息子たちに接種させようと思う。子宮頸がんは女の人だけの話と思ってらっしゃる方が多いと思うが、突然何もなくて発症するということはほとんどないので、インフルエンザワクチンの予防接種の助成とかよりも優先的にすべき。不妊治療の助成額や回数が増えているとよく見るが、その不妊治療に入る前の段階で子宮頸がんにかかっていると分かったら、それを治療するのに多くの時間と労力を使うので、予防に取り組んでもらえた方がありがたいと思う。未来ある子どもたち、女の子も男の子も、より良く健康に生きていくのであれば、そこが重要ではないかなと思う。

5 閉会

【西田副委員長】 省略